

[TOP page](#)
[資料室](#)
[イベント情報](#)
[講師を探す](#)
[Worker's 広場](#)
[関連リンク](#)

資料室


[HOME](#) | [資料室](#) | [一般教養](#) | [ライフプラン](#) | [家族形成期のライフプラン](#)
[労働組合](#)
[労働者福祉・共済](#)
[一般教養](#)
[社会保障](#)
[労使トラブル法律相談Q&A](#)
[労働関係法](#)
[経営全般](#)
[人間関係とコミュニケーション](#)
[ライフプラン](#)
[男女共同参画](#)
[公務員関係法](#)
[日朝の歴史](#)
[7つの習慣](#)
[中東の歴史](#)
[ボランティア活動](#)
[環境活動](#)
[社会貢献活動](#)
[自己啓発](#)
[生涯学習](#)
[外交・防衛問題](#)
[資本論](#)

家族形成期のライフプラン

1. はじめに

結婚すると、さまざまな「意識の転換」を迫られます。たとえば、異性の友人との付き合い方。最初はちょっと窮屈ですが、いくつかのルールを作ってそれを守ると、いらぬ誤解や問題をまねかずにすむのです。また、結婚したら家族単位で考える必要が出てきます。そのため将来のために貯蓄などを始めるなど自由に見えるお金の範囲は狭くなります。そのため、夫婦でライフプランについて話し合う習慣をつけておきましょう。

2. マネープラン

お金のことも同じです。独身の時は好きなようにお金を使うことができましたが、結婚したからには、自分だけのお金ではなくなります。いくつかのルールを作って、二人でそれを守れば、いらぬトラブルを避けられるだけでなく、ファミリーとしての夢の実現を早めることができます。結婚を期に、お金のデスクローズ、家計のおおまかな感じをつかみましょ。子供が生まれ、家族が増えたら、必要な支出も増えていきます。子供の成長とともに進学などのライフイベントが目白押しなので、効果的な家計管理がますます重要になります。

3. 保障プラン

保障については、配偶者が働き続けるのであれば独身期の保険のままでもよいでしょう。遺族保障については子供が生まれた時に本格的に見直しましょう。子供が生まれたら、その子が自立できるまでの養育・教育するのが親の責任です。万一のことがあっても、遺された家族が経済的に困らないよう資金手当てをしておくために、遺族保障はメインの保障設計が必要となります。その場合は、公的保障や企業での保障を考慮して、保障の不足分を保険・共済などで備えましょう。

資料に関する解説やサイト内ブックマーク、簡単なクイズもできる無料会員登録のお申し込みはこちらになります。

Worker's Library 会員登録

お申し込みはこちらです。

>>一覧へ戻る

[教育カリキュラム](#)

[日本国憲法](#)

[傾聴](#)

[語り部スキル](#)

[▶ キーワード検索はこちら](#)

[▶ サイトマップ](#) [▶ このサイトについて](#) [▶ 個人情報保護の取組みについて](#)

[▶ ページTOPへ](#)

[TOP page](#)

[資料室](#)

[イベント情報](#)

[講師を探す](#)

[Worker's広場](#)

[関連リンク](#)

Worker's Library 静岡で働く人のための資料閲覧サイト
JAPANESE TRADE UNION COFEDERATION DB SITE **【ワーカーズ・ライブラリー】**

Copyright© WORKER'S LIBRARY All rights reserved.